

役にたつ！



Book Guide



観察の練習

菅 俊一・著
Numabooks 2017
定価1,760円（税込）
ISBN 978-4-909242-01-3

「アイデアの種は、あなたの日常の『ちいさな違和感』に隠れている。」

この本は、日常の何気ない「観察」を通して、日常の違和感に気づくという行為を、実験的かつ挑戦的に提示している。私たちは毎日いろいろな事象に出会っているが、果たしてそれらをどれほど注意深く見ているだろうか。

本書の中には、たくさんの「違和感」が潜

んでいる。それは、「痕跡から推測する」「先入観による支配に気づく」「世界の中から構造を発見する」「新しい指標で判断する」などのカテゴリーとともに、ちょっと不思議な写真の中に隠れている。あなたは、ページをめくるごとに現れる写真の中の、おやっと思う小さな違和感の中に、実はわくわくするようなアイデアがたくさん隠れていることを発見できるはずだ。

本書を読んだ（観察した）後には、きっと何気ない日常に潜む、さまざまな「違和感」を発見できるようになるだろう。

日々感性豊かに、たくさんのアイデアに出会うためのヒントをくれる、オススメの1冊。
有山裕美子（長野県・軽井沢風越学園教諭）



戦後夜間中学校の歴史 ：学齢超過者の教育を受ける権利をめぐって

大多和雅絵・著
六花出版 2017
定価3,300円（税込）
ISBN 978-4-86617-034-3

全国に約30校が設置されている公立中学校の夜間学級（いわゆる夜間中学校）。年齢も国籍もさまざまな生徒たちが学ぶ貴重な学び舎である。夜間中学校が設置されている地域は関東と関西に偏っており、入学したくてもできない地域のほうが多い。

こうした状態を解消すべく、2016年12月に制定された「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する

法律」では、夜間中学校の設置促進などが盛り込まれた。それでも、なかなか設置が進まず、2021年1月には衆議院予算委員会において、菅義偉首相自らがすべての都道府県と政令指定都市に今後5年間で少なくとも1か所ずつの夜間中学校設置を目指すと表明している。

夜間中学校はどのように生まれ、歩んできたのだろうか。このことを正面から明らかにした一冊が今回紹介する本書である。本論は、「夜間中学校の制度をめぐる戦後史」「一九七〇年代における夜間中学校の開設」の2部のもとに7つの章で構成されている。本書を通して夜間中学校の意義と必要性を再認識することができる。学校教育に携わる人にはぜひ読んでほしい一冊である。

野口武悟（専修大学文学部教授）